

一人ひとりの特別な教育的ニーズに応じた、柔軟・適切な
教育的支援が必要な子どもに対応するための参考となる
昭和戦後期の文献を復刻。

要支援児教育 文献選集

第Ⅲ期全7巻〈戦後編〉

中野善達 編・解説



クレス出版

要支援児教育文献選集 第Ⅲ期全7巻〈戦後編〉

中野善達 編・解説

- 第15巻 特殊児童の心理、特殊教育
- 第16巻 異常児の記録、虚弱・病癱児童の教育
- 第17巻 精神衛生の理論と実際、精神遅滞児教育の研究
- 第18巻 特異児童の教育
- 第19巻 問題児指導の実際
- 第20巻 総説特殊教育
- 第21巻 問題児、0学級の子供たち

A5判/上製函入/クロス装 揃定価85,000円(税別)
平成21年2月末日刊行 ISBN978-4-87733-462-8(セット) C3337

要支援児教育文献選集 第Ⅰ期全7巻

中野善達 編・解説

- 第1巻 日英の盲人、世界盲人列伝、盲教育概論
- 第2巻 異常児教育の実際、異常児教育法の新研究
- 第3巻 感化教育の研究、不良少年の実際、伯林の特殊教育
- 第4巻 促進教育の新研究 基礎篇、東京市編智能検査法
- 第5巻 低能児及不良児の医学的考察
- 第6巻 聾教育概説、私の体験せる聾教育
- 第7巻 創立六十年史

揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-420-8(セット)

要支援児教育文献選集 第Ⅱ期全7巻

- 第8巻 視話法、東北発音矯正法、点字発達史
- 第9巻 林間学校、虚弱児童の養護及治療指針、結核予防原則
- 第10巻 異常児の教育 上・下
- 第11巻 体育異常の病理と矯正運動、天才の発見
- 第12巻 聾啞、歌ふ子供たち
- 第13巻 聾教育学精説
- 第14巻 児童の悪癖

揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-432-1(セット)

司法統計年報 全10巻(昭和27年~昭和31年) 湯沢雅彦 監修・解説

約50年前の家族紛争や少年非行の実情を、全国規模の大きな数字と各地の家庭裁判所と
その支部・出張所ごとの小さな数字とで、明確に確認することができる貴重資料。

- 家事編 全5巻 揃定価70,000円(税別) ISBN978-4-87733-361-4
- 少年編 全5巻 揃定価72,000円(税別) ISBN978-4-87733-367-6

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名

中野善達

(元日本特殊教育学会会長)

一人ひとりの特別な教育的ニーズに応じた、柔軟・適切な教育的支援が必要とみなされる子どもが多数存在します。こうした子どもにはいわゆる障害児だけでなく、日本語学習に課題がある子、学業不振児や不登校の子、虐待を受けている子、いじめられたりいじめられている子、落着きのない子、非行や問題行動を起こす子などが含まれます。

第二次大戦の終結によって国家主義的・軍国主義的な教育体制が除かれ、近代的人権思想を基盤とした六・三・三・四制の新しい学校体系が樹立されました。ここでは、心身に障害のある児童生徒を対象とする特殊教育も学校教育の一部とされ、通常児に準じた教育を、障害の種類・程度に応じて、教育内容・方法に特別な配慮をしながら施すことが約束されました。

しかしながら、国全体に及ぶ生活水準の低下、社会秩序の崩壊、道義の退廃等の影響を受け、孤児・浮浪児はいうまでもなく、一般家庭にあつても保護・支援を必要とする児童生徒が急増していました。

新しい教育の理念やその内容・方法の模索や提唱が盛んになされ、その出版活動も活発化しました。第三期では、終戦後、とりわけ一九五〇年代までに刊行された図書を取り上げてみました。例えば四五歳の若さで急逝した東京高等師範学校の後藤岩男は、附属小学校で八年ほど学業不振児や知的障害児の指導にあたってきた綾子夫人の克明な記録を基に著述をしています。ここでは、異常児といわれる子どもたちが通常児たちと同じ心理的境界に住んでいることが生き生きと描写されていて、異常児の見方・接し方が浮き彫りにされています。これらを基盤に急速に進展するようになった精神遅滞児教育の萌芽の状況の実際や、問題児といわれる子どもたちへの取り組みの実際が具体的に叙述された図書が含まれています。さらに、精神衛生の理論、盲聾重複障害児への最初のアプローチなどが収載され、多くの示唆を与えてくれることでしょう。

第15巻

特殊児童の心理(児童心理叢書V)

児童研究会編/昭和23年/金子書房

特殊教育

宮部正夫著/昭和25年/憲法普及協会

第16巻

異常児の記録

後藤岩男著/昭和23年/大日本雄弁会講談社

虚弱・病癇児童の教育

木田文夫著/昭和24年/金子書房

第17巻

精神衛生の理論と実際

黒丸正四郎著/昭和24年/黎明書房

精神遅滞児教育の研究

特殊教育研究連盟編/昭和25年/牧書店

第18巻

特異児童の教育

アーチ・オー・ヘック著、岩田勝次・坂田貞男訳/昭和25年/河内文庫

第19巻

問題児指導の実際

文部省/昭和28年/明治図書出版

第20巻

総説特殊教育

川本宇之介著/昭和29年/財団法人青鳥会

第21巻

問題児(児童問題新書)

児童研究会編/昭和25年/金子書房

0学級の子供たち

藤口透吾著/昭和31年/誠信書房

第21巻 問題児

落ちつきのない子供(西谷三四郎)

四

このような社会適應性の障害を示す子供を、わたくしたちは問題の子供といっています。したがって、問題の子供というものの中には、種々の種類や内容のものがあるわけです。知的行動に劣っている場合もありますし、いわゆる性格が変わっている場合もあります。このような欠陥や偏異は、盗みとか、乱暴とか、怠惰とか、飽き性とか、その他いろいろの現象となつてあらわれます。いわゆる「落ちつきのない子供」というのも、このような、社会適應性の悪い、問題の子供の一つです。

学校や家庭において、よくこのような子供に出会います。いつもそわそわとして、じつといていません。授業中でも、隣の友人の髪をひっぱったり、脇を肘でつついたり、また、傍見をしては、身体をゆすつたりします。教師が注意を與えますと、ちよつとの間だけ落ちつきませんが、暫時にして再び同じような状態になります。そのために、本人が充分に勉強ができないだけでなく、教室全体の空気が乱されて、うまく皆が学習に専念することができなくなるのです。家庭においても、同じような事態があります。ご飯を家族が集まつて、皆一緒に食べているときも、本人はじつと坐つていられないのです。一口喰べては頭をふつたり、また一口喰べては、食卓の傍にあつたボールを向こうへ轉がしてみたり、ホッペタをポリポリかいたり、食事の途中で便所に立つたりします。その度に、両親や兄弟の叱言が飛びます。すると本人は、ちよつとは緊張した状態におさまりますが、再び前のようなことを反復します。嫌に釘だね、とか、家庭の者がこぼすのです。

このように、落ちつきがないということも、その本人のみでなく、他人にも大きな障害となるものです。したがって、学校や家庭では、よくこれが重大な関心の的となります。落ちついた子供にしたい、というのです。しかし、これはただ、無暗に叱つたり、禁止したりするだけでは、到底成功は望まないのです。それは、落ちつきがない、という状態に対する正しい認識がないからにほかなりません。落ちつきがないと一概にいいますが、それには、次第に述べるように、いろいろの場合があり得るのです。したがって、その種々の場合にそれぞれ適した、正しい処置が要請されて来るのです。このような眞の理解が一般にあまねく行われるようになったときこそ、落ちつきがない、という状態から来る社会的障害が、消失する日を期待できます。この日のために、わたくしたちは、次に種々の角度から「落ちつきのない子供」を考えてみましょう。

落ちつきのない子供(西谷三四郎)

五

第16巻 異常児の記録

子供と癡

一

子供達が持つてゐる癡を、その子の性格像と併せ考へながら、一人々々追つて行くと實に面白い。概してこの補助學級の子供達は、持つてゐる癡の數が多いのみならず、癡そのものも亦、普通の子供達とは違つて奇妙なものがあつたり、或は頑固な癡があつたり、極めて多種多様である。私共普通人ですら、無くて七癖といはれる程、誰でも多少の癡を持つてゐる。まして、精神の異常性を特徴とする補助學級の子供達においては、癡の數の多いことや、癡そのものの性質が奇妙であつたり、悪性であつたり、頑固であつたりするのは當然のことである。普通の子供の癡においては、「子供が癡を持つてゐる」と表現したり、「癡が子供にくつついてゐる」と表現するのが適切であるが、補助學級の子供達の癡においては、「癡の中に子供が入つてしまつてゐる」とか「癡が子供を持つてゐる」と言つた方が一層適當な表現である。それ程彼等には頑強な癡があつたり、奇妙な癡があつたりする。そして癡が発生し、變遷する経路や手順においても亦、彼等にはそれ／＼獨特な特徴がある。

神谷は、この補助學級の子供達について、幾人かの癡を矯正し、また幾人かの癡の矯正のために苦心した經驗を持つてゐる。そして、或時などは、或る子供の癡の矯正に、はたと行詰つてしまひ、癡といふものは一體何のことか、癡と性格とはどういふ關係にあるか等々と、根本的理論的な問題について深く考へさせられたことすらあつた。しかし、いくら頑強な癡でも、結局教育の手の届かないやうな癡は一つもない。他の精神現象と同様に、癡の矯正には又自ら手があるものだと、嘗て自分の經驗を思ひ出して神谷になつかしくも追憶されるものがある。

今年四月、この補助學級に、面白い癡を持つた女の子が入つて來た。名前は石井八重子といつて、父は某官廳の官吏である。八重子は満四歳頃までは、普通の子供と何等異ることなく極めて順調な發育を示してゐた。四歳の夏、重篤な疫痢にかゝり、殆ど重態のまま一週間ばかり四十度の高熱のまま意識を失つて経過した。その間に數回ひきつけ、その度毎にもう駄目だと醫者に宣告された程であつた。疫痢の時に腦症を起したのが、結局八重子の今日の原因になつたやうである。八重子は現在でも身體の發育も遅れてゐるし、精神の方面においても亦極めて特異な數々